



世帯数 6,023戸  
人口 13,935人  
(令和3.3.1現在)

# コロナ禍の二年を振り返って



令和2年はまさに、新型コロナウイルスに悩まされた1年だったと思います。コロナにより亡くなった方も全国では8000人を超えています。今後も増えることが予測されています。長野県でもコロナに感染した方は2000人を超えました。

松本市でも例外ではなく多くの患者さんの発生を見えます。そのような状況では当たり前ですが、令和2年度の当初からコロナ禍の厳しさが増し、国内では多くのイベントにおいて中止や延期・事業の縮小がされています。

また最大の関心事である東京オリンピックも1年間の延期がなされています。令和3年に開催されることを期待しているのは私だけではないでしょう。

さて、地元のことを振り

返ってみましても同様でした。5月末に計画されていた駅伝大会・7月の初めの球技大会10月中旬の住民運動会・11月上旬の寿地区文化祭も中止でした。その他の団体の活動も大差なく、中止や規模の縮小という形で開催されていました。このような時どのような取り組みべきか考えさせられた1年でした。

何もせず時が過ぎるのを待つか、コロナの感染防止対策を行い、企画を考えると一つの行動が生まれてきたのではないのでしょうか。このような緊急事態と言われる中でいかに公民館や町会の事業を行う積極的な活動が必要であったか、と考えを持った方もおられるでしょう。

令和3年度も現在のところどう進むかわかりません。コ

ロナの脅威がなくなるかどうか現状では予測が付きません。地区や町会での活動からコロナを感染させることはできません。感染防止対策を確実に、少人数の参加による企画や取り組みを考えたらどうでしょうか。

最後に、きわめて厳しい環境の中で患者さんの治療にあたって医療従事者の皆さんに感謝いたし結びといたします。

【館報編集委員 久保田 幸康】

## 寿公民館灯油浄化工事が完了しました

令和2年9月から始まりました寿公民館敷地内灯油浄化工事について、1月までに地中の浄化工事、2月に灯油配管工事、アスファルト舗装工事が完了しました。公民館の会議室のFF式ストープをご利用いただけます。

3月3日には、写真のとおり駐車用ライン引き工事が行われました。

工事期間中、住民の皆様にはご理解とご協力をいただき誠にありがとうございました。

今後とも寿公民館をご利用ください。



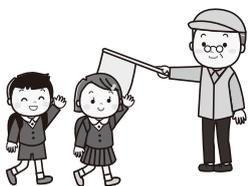
【寿公民館】

## 松本市善行表彰を受賞

令和2年11月1日(日)、Mウイングで第63回まつもと市民祭表彰式典が開催されました。

表彰式典では、松本市表彰規程に則り多年にわたり松本市民の模範として善行をされた方々6名に、賞状と記念品の銀杯が臥雲市長から授与されました。

寿地区では百瀬町会から推薦した市村和美さん、竹測町会からは河西収・温子さん夫妻、櫻



井修さんの計4名が表彰されました。百瀬町会の市村さんは寿小学校前で長年にわたり児童の見守りを続けています。

竹測町会の3名は「竹測子ども見守り隊」として寿地区の通学路において登下校の児童・生徒の見守りに取り組み、事故防止や啓発運動を行いながら児童と交流しています。

【寿公民館】



式典の様子 (前列右から1人目が河西収さん、後列右から櫻井修さん、河西温子さん、市村和美さん)

# わがまちこの人 《白川町会》

寿地区内外で各種団体の役員など精力的に活動を続けておられる白川町会の五味富士さんを紹介します。

五味さんの活動の原点はバスケットボールにあるそうです。高校時代インターハイへ2年連続参加し、その後もミニバスケットの指導員をして75歳まで病んで倒れるまで、現役選手としてねんりんピックで全国の体育館歩きをされ、昭和57年ママさんチーム(松本クラブ)を立ち上げ、長野県家庭婦人連盟結成にも尽力され、長年理事長に続いて副会長を務めていました。バスケットの関係でスペシャルオリンピックス「略称SO」(ケネディ大統領の妹の提唱による知的障害者のためのスポーツプログラム)で国際的な大会を開催」と出会い長野市でコーチを行い、その後松本でもとの要望により頑張つてSOの組織を立ち上げられました。



五味 富士さん

平成25年まで支配人として活動されました。

その後白川地区育成会会長を経て、寿地区子ども会育成会長を6年間務められました。寿小学校学校応援団長を兼任され、文部科学大臣表彰を霞ヶ関で受賞されとても緊張されたようです。

192サロン参加者の方々が、パネルシアターを見たいとの要望があり、あちこちへ勉強に出掛けて平成17年に「SUNババ」を立ち上げました。

192サロンはもとより、寿・芳川他つどのひろば保育園児童センターデイサービスや介護施設等へ出向き公演を重ねてその活動に対して松本市社協より表彰されました。

令和元年12月18日寿福祉ひろばでの第400回公演をもって終了しました。その間大変なこともありましたが、多くの方々とお会いできたことが私の宝です。と感慨深く話されています。これからもできる限り地域福祉に力を尽くしたいと意欲的でした。

【館報編集委員 松澤 憲一】

# 寿田町町会・ミニ文化祭開催

令和2年度は、コロナ禍のため多くの事業が中止となりまして。寿田町町会ではその中でも活動している皆さんのために町内公民館でミニ文化祭を開きました。密を避けるための会場づくりや、体温測定とマスクの装着などで対応し、11月8・9日の2日間にわたり行いました。



玄関先には菊の花が来場者の道案内として展示されました。公民館の中には、広間・和室と多くの作品が展示されていました。

関係者が説明などをしていました。折り紙同好会では来場者につくり方を教えるなど種々の事業は久しぶりでしたがコロナ禍の中ではよい試みであったと思います。コロナ禍といわ



れ、消極的になりがちですが、しっかりした対応をすれば事を行うことができると思えました。



またこのような時期皆さんの心が少しでも和むことができればと考えます。



【寿田町公民館長 若林 好生】

# 耳塚古墳跡のケヤキ枝打ち

百瀬町会・耳塚古墳跡の樹齢800年ともいわれるケヤキの大木2本の枝打ち作業が2月12・13日に行われました。

ケヤキの樹高は約18メートル、幹回りは7メートルを越え、松本市の保存樹に指定されています。近年では樹勢の衰えから枯れ枝が目立ち始め、周辺道路や民家への落下が相次いでいることから市の補助制度を活用し、大型クレーンによる約20年ぶりの枝打ち作業となりました。

作業は一本ずつ作業員がチェーンソーで行い、切った枝をクレーンで吊り下げて降ろし、地上では別の作業員がパッカー車に積み込むという流れ作業で進みました。

作業後は写真のとおり、太い幹と枝だけとなりましたが樹勢を保つように枝打ちされており数年後にはまた枝葉が生い茂ることを思います。今後も百瀬町会・寿地区の行く末を静かに見守ってほしいと願っています。

【寿公民館】



剪定作業後